

ナミエナジー開所

移動式水素ステーション

アポログループ(本社・福島市)のふくしまハイドロサプライが整備した移動式水素ステーション「ナミエナジー」は二十四日、浪江町の棚塩産業団地に開所した。相双地方では初の商用水素ステーションとなる。「水素タウン構想」を進める浪江町を中心に燃料電池車(FCEV)の普及促進が期待される。



テープカットし、ナミエナジーの開所を祝う相良社長(左から3人目)、吉田町長(同4人目)ら

町内の「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」で開所式が行われ、アポログループの相良元章社長が「今後も一歩ずつ水素社会の実現に取り組んでいく」とあいさつした。

ナミエナジーはFH2Rの西側に設置された。敷地面積は約七百五十平方メートルで、FH2Rで製造された再生可能エネルギー由来の水素を活用。専用トラックのタンクに水素を貯蔵し、FCEV三台分を満タンにできる量を供給する。二〇二三年(令和五)年以降、浪江町を拠点に、東京電力福島第一原発事故で被災した十二市町村に営業拡大を検討し、脱炭素化を促進していく。

ナミエナジーの営業日は毎週水、木、金曜日。営業時間は午前十時半から午後三時。問い合わせは、ふくしまハイドロサプライ 電話024(563)3144へ。

浪江から再エネ積極推進

アポログループの相良元章社長は二十四日、福島民報社などのインタビューに、水素社会の実現に向けた取り組みを一層進めていく考えを強調した。

浪江町に移動式水素ステーションを開所した狙いは、

「これまで福島市や郡山市で移動式水素ステーションを運営してきた。そのノウハウを生かし、被災地で再生可能エネルギーの推進に積極的に取り組んでいくと考えた」

アポログループ 相良元章社長



水素社会の実現に向けた取り組みを一層進めていく考えを強調する相良社長

「浪江町では水素社会実現に向けていけばと思っています。現に向けたまちづくりが進んでいる。」

今後の展望を。

「これから未来都市が始まるという印象。福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)の水素をナミエナジーが活用することとなるような取り組みを進めていく」